



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/25 (月)	▲ 2,500	+ 7,000	+ 4,500	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 400 社債等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 35,700		日: 植田総裁が経団連審議委員会で講演
12/26 (火)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				日: 完全失業率 (11月) 日: 有効求人倍率 (11月)
12/27 (水)	▲ 3,000	▲ 6,000	▲ 9,000				日: 政策決定会合における主な意見 (12月18日・19日分)
12/28 (木)	▲ 2,000	▲ 9,000	▲ 11,000				米: 中古住宅販売成約指数 (11月)
12/29 (金)	▲ 1,000	▲ 6,700	▲ 7,700				

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,600億円減少の538兆5,500億円から始まった。その後、20日の国債大量償還を主因に増加し、週末となる22日には544兆8,600億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.013%から始まった。週を通してビッドサイドの資金調達意欲は底堅く、同金利は▲0.013%~▲0.010%で推移した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.02%台~▲0.01%台で取引された。

来週の主な予定は、国内で完全失業率及び有効求人倍率の公表 (26日)、日銀金融政策決定会合における主な意見 (12月18日・19日開催分) の公表 (27日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.18%~▲0.15%の出合いから始まった。政策決定会合の2日目となる19日には▲0.20%近辺の出合いから後場に▲0.15%付近まで上昇。大引けには再び▲0.20%を下回る出合いとなった。以降は▲0.18%~▲0.12%のレンジで推移し、3m短国の入札があった22日には▲0.09%まで上昇した。SC取引は2年438~455回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,000億円で、週間償還額 (約1兆2,000億円) を上回った。発行市場は、不動産や電気機器、小売業等の複数業態にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の28兆6,447億円から21日時点で28兆7,333億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から一部の銘柄においてはベース台での出合いも見られた。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約3兆1,000億円) を含み、約4兆7,500億円となっている。発行市場は、事業法人による期末の負債圧縮により、多額の期日償還が見込まれるため、償還超と予想される。また、多くの企業が年末休暇に入るため、落ち着いたマーケットになると思われる。発行レートは、金融政策変更への警戒感等から、レート水準が定まりにくい展開が予想される。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

18日の1Y (1202回債) の入札は、最高落札利回り0.0000% (前回債▲0.0378)、平均落札利回り▲0.0039% (前回債▲0.0468%) となった。22日の3M (1203回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1950% (前回債▲0.1619)、平均落札利回り▲0.2394% (前回債▲0.1723%) となった。来週の入札は予定されていない。